

経営会議（3月25日開催）議事概要

1 開催日時

平成21年3月25日（水）15:00～17:00

2 場所

岩手県立大学本部棟3階 大会議室

3 出席者

相澤理事長、谷口副理事長、佐々木理事、古澤理事、本田敏秋委員、野口純委員（谷村邦久委員、田口秀樹委員欠席）

（事務局）

伊藤理事、小原教育・学生支援室長、小山研究・地域連携室長

経営企画室：高橋課長、斎藤主事

総務財務室：菊池主査

4 会議の概要

理事長あいさつ

今回は来年度の計画と予算を中心にご審議いただく。教育と研究を通じて、どのように地域貢献をミッションとして実践していくか、来年度もご意見を伺いながら実施していくシステムとしてまいりたい。

【審議事項】

（1）平成21年度計画（案）について

（2）平成21年度予算（案）について

（1）及び（2）を一括審議とし、（1）を高橋経営企画課長、（2）を菊池総務財務室主査から説明の後、協議した。

本案はいずれも承認された。

主な質疑・意見

- ・ 以前に、仕事を通じて、情報関連会社の社長と話す機会があった。その会社は3次元技術をもとに住宅産業に関りながら顧客開拓をしているが、技術者が確保できずに中国・北京へ進出しているとのことであった。北京では大学と企業との連携が進んでおり、同様の会社は多くあるとのことであった。しかし、当然に文化の違いから無駄な作業が生じているとのことであった。その社長に岩手県立大学の紹介をしたら、うまく連携がとれれば連携してまいりたいと話していた。

また、岩手県立大学は情報を発信しているし、評価も上がってきている。しかし、大学の活動は点では分かるが全体としての印象は薄いと感じる。平成21年度には何らかのキャッチフレーズがあればよい。

- ・ 平成20年度の開学10周年は“いわてを担ぐ”をキーワードに取り組んできたものである。平成21年度は人材の県内定着のために、情報のネットワークを築いてまいりたい。きめ細かく情報収集をして、

産業界から望まれている自在を輩出してまいりたい。

- ・ 大学として、地域でどのような人材が必要とされているのか、リサーチすることは大切である。そうしなければ実効は上がらないだろう。雇用のマッチングのためにはインターンシップも必要である。
- ・ 岩手県立大学のソフトウェア情報学部を卒業しても県内就職は難しいと言う人もいる。この誤解は、高校との情報交換を十分に行い、解決していく必要がある。

(3) 授業料等関係規程の一部改正について

小原教育・学生支援室長から説明の後、協議した。

本案は承認された。

【報告事項】

(1) 認証評価受審結果について

高橋経営企画課長から報告があった。

主な質疑・意見

- ・ この評価結果は県に対して何らかの強制力をもつのか。
- ・ 本学の中期目標を評価する岩手県地方独立行政法人評価委員会があるが、当該委員会の本学に対する評価に盛り込まれていくことになるだろう。

(2) 開学10周年記念事業の実施結果について

高橋経営企画課長から報告があった。

主な質疑・意見

- ・ “いわてを担ぐ”は岩手県立大学のイメージとマッチングするのか。
- ・ 大学の広報戦略をよく勉強して計画的に実践していくことが必要と感じている。